本郷ふじやま公園広報紙　第 101 号　2011 年 5 月 15 日(日)

ふじやまだより

本郷ふじやま公園
運営委員会発行

☆本紙のカラー版をホームページ「本郷ふじやま公園」にてご覧いただけます

美しい日本の原風景がここにも･･･

ふじやま公園一帯の春は、梅が香り、桜の花びらが舞い、大きな枝が空に満ちていきます。新緑が輝きをみせる頃、季節の足取りは確かなものとなり、この地に芽吹いた植物の力に勇気をもらった方々も少なくないでしょう。

柿の若葉

春の林、丸いどんぐりでお馴染みのクヌギや細長いどんぐりのコナラが、房状の淡い黄色の花を咲かせます。あたりに独特のにおいを漂わせているのは、この花かもしれません。藪のなか、孟宗竹が新芽を出しました。大きなケヤキは、夏には木陰を、秋には紅葉を、冬には美しい樹形を楽しませてくれる落葉性の高木で、今、枝はほうき状に広がり美しい姿をみせています。

新緑のケヤキ

冬になって葉を落とし茶色い枝だけになっていた柿の木が、淡い緑の芽をつけますが、すぐに開いて葉になってしまい、新芽を楽しめるのはほんのわずかの時間。春の訪れを感じるひとコマといえるでしょう。冬には、菰被りをして人目を避けるようにしていたボタンも、外套を脱いで美しい姿を見せています。

ここふじやまの地でも春の息吹を感じるように、被災地東北の地にも、等しく季節が巡り、人々を癒し励ましてくれることを願ってやみません。

公園ウォッチング

鍛冶ヶ谷からの急坂を自転車で登ったせいで火照った体に、新緑の梢を揺らしながらわたってくる風が心地よい。

古民家へと続く園路には、にわか雨に雨具を求めた戦国武将と農家の娘の故事で有名な山吹が黄金色の花をつけている。家に蓑がない状況を、“実のひとつだになきぞ悲しき”　と詠んだ古歌になぞらえて、山吹の小枝を差し出した娘の機転を利かせた対応に感心しながら長屋門をくぐり納屋の中を覗くと、こちらには蓑がちゃんとかけられている。

家に帰って調べてみると、歌に詠まれた八重咲きの山吹は実をつけないが、ふじやまに咲いている一重のものは実のある種類であると書いてあった。

◇タケノコ掘り

５０センチを超す大物。ほかのたけのこが小さく見えます

“お父さんこっち。あったよ。”“ウワ折れちゃった。もったいない。”そんな歓声があっちこっちから聞こえてきます。
雨で４月10日に順延となったタケノコ掘り。春先の気温が例年に比べて低かったせいか、「雨後のたけのこ」とは程遠い状況でしたが、足で落ち葉を注意深く払いのけると頭が見えてきます。
１時間ほど掘って中には50センチ以上の大物も。参加者は２、３本ずつお土産にもらって、その晩は旬の味覚に舌鼓をうったことでしょう。

お父さんがんばって。これだけで息が上がっています

◇端午の節句

端午の節句にちなんで公園では、４月20日から５月 16 日まで座敷に武者人形を飾り、中庭に鯉のぼりを揚げています。武者人形や鯉のぼりには男の子の成長と健康を祈り、立身出世を願う思いが込められらています。中庭に建てられた 16 メートルのポールには、青空を背景にして鯉が気持ち良さそうに泳いでいます。

内蔵の宝　お膳

平安時代の頃から大部分の人々は一人用のお膳で食事をしていました。このお膳は、家の格式や身分、料理の内容、また日常使うものか、結婚式など特別な日に使うものかによって、折敷に足がついたもの、漆塗りのものや食器をその中にしまうことができる箱膳などいろいろな種類がありました。

内蔵には漆塗りのものはありませんが、折敷の下の両側や四隅に足が付いたものと箱膳があります。写真はその内の箱膳です。食器は食事が終わるとお茶で簡単にすすいで箱の中にしまいました。水を汲んで運ばなくてはならなかった家では三日に一度くらい、丁寧に水で洗いました。

一人用のお膳が使われたことや現在でも家族がそれぞれ自分用のお椀やお箸をもつことは日本の特徴的な慣習です。かつては食べるときは、大きな音をたてないようにして、おしゃべりすると親から注意されました。背筋を伸ばし、美しい姿勢で食事をすることが家庭でしつけられたのです。

『いろり辺雑記』から（原文のまま）

涼しさにひたるいろりふち。なんか、ゆったりできることっていいですね。こいのぼりも、ほんとに、おもしろそうにおよいでる。

古民家を守る（その４）　消火エンジンポンプ

これまで古民家を火災から守る散水設備や貯水槽を紹介しましたが水を送るためにはポンプが必要です。それが消火エンジンポンプです。管理事務棟北側のポンプ室に収容されており、バッテリーをもつエンジン駆動型で、３時間連続運転できる燃料タンクを装備しています。性能は出力 150 馬力、吐出量は毎分４トン、揚程(ポンプが水を揚げる高さ)約 80 ｍです。

エンジンはディーゼルエンジンなので停電の影響は受けません。ポンプの起動は炎感知器からの信号による自動起動、事務棟内の消火設備操作盤の押しボタンによるドレンチャー放水があります。ほかに放水銃格納箱内の起動ボタンを押すことにより起動し開閉弁の操作による放水があります。ポンプの機能を維持する保守点検が肝要で、6 カ月ごとの機器点検と 1 年ごとの総合点検があります。高機能の設備ですが、古民家と同様にこまめな手入れが大切です。

ふじやま公園の植物

ツルニチニチソウ　　キョウチクトウ科

学名はビンガ・マジョール。南欧、北アフリカ（地中海沿岸）原産。７月頃まで淡い青色の花が咲く。花は筒状の蕾から筒の先端が５弁に分かれ、花の中心には五角形の付属体がある。葉には光沢があり対生する。初め直立していた茎は徐々に這い出して伸び、地面に付いた部分から発根して増殖する。野原や土手で野生化、いたる所で見かける。公園内の日本庭園では淡青色の花が映え風情を醸しだしている。

平成 23 年 6 月ボランティア活動予定

部会・事項	日　　程	部会・事項	日　　程
事務局会議	3 日(金)	古民家歴史部会 部会 古文書解読勉強会 歴史探訪	12 日(日) 5日(日)26日(日) 2 日(木)
農芸部会 部会 作業	20 日(月) 月曜日　木曜日		
里山部会　作業	11 日(土) 18 日(土) 26 日(日)	囲炉裏守 囲炉裏焚き	当分の間休みます
工作棟部会 部会 子ども工作準備	22 日(水) 適時	クリーンアップ	7日(火)21日(火)
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ制作打合せ	5 月 29 日(日)	ふじやまだより編集会議 印刷	4 日(土) 11 日(土)

登録ボランティアを募集しています。公園事務所(TEL 896-0590)へご連絡下さい。

楽しい教室のお知らせ

奮ってご参加ください。お待ちしております。

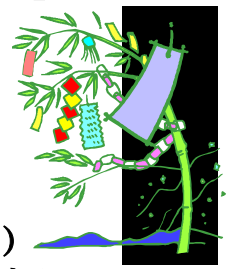
教 室 名	日　　時	内　　容	参加費	応募期限
作って遊ぼう～子ども工作の日	6月19日(日) 10時～12時 13時～15時	アサガオの折紙で絵をかこう	無料 当日受付	10時～11時 13時～14時 先着各12名
押し絵	7月7日(木) 13時～16時 12日(火) 同上	「シャボン玉遊び」	1,500円	6月25日(土)
七　宝	7月13日(水) 13時～15時	多色盛りのブローチをフリットをのせてつくります	500円	6月22日(水)
粘　土	7月15日(金) 13時～15時	粘土で作る花のブローチ	500円	7月8日(金) 6名
第66回初心者茶道体験教室	7月16日(土) 13時～16時	古民家で茶道を楽しんでみませんか。初心者大歓迎 平服でおいで下さい	500円	6月30日(木) 10名
布ぞうりつくり	7月22日(金) 10時～15時	一日で一足完成します	500円	6月30日(木)
里山のそば打ち塾	7月23日(土) 10時～12時	初心者大歓迎。初めてでも美味しいそばがうてます	700円	7月12日(火) 6名
押し花	7月29日(金) 13時～16時	夏の花を涼しそうに押し花絵額にする 18cm×10cm	2,000円	7月20日(水) 10名

(1)持参品：返信はがきで連絡します。(2)定員：12名。応募者多数のときは抽選
(3)応募要領：往復はがきに、教室名、氏名（ふりがな）、郵便番号、住所、電話番号を書いて応募期限までに本郷ふじやま公園へ

・・・お知らせ・・・

★流しわんこソーメンと竹細工

開催日時：7月3日(日)　雨天中止　　場所：中庭
10時～12時　竹細工「七夕のミニ笹飾り、かざぐるま、うぐいす笛」
11時～12時　流しわんこソーメン
七夕祭りの一時、青竹を流れるわんこソーメンと竹細工で楽しみませんか
流しわんこソーメンのみ　200円(先着150名様限定)　竹細工は無料です



★七夕祭りのご案内

開催日時：7月1日(金)～7月7日(木)　9時～17時（7月1日は11時から）
期間中、古民家縁側に竹を立て掛けます。来園者の皆様には短冊に願い事を書き竹に取りつけ、ご一緒に彦星・織姫星に願いを託されては如何ですか

★４月ふじやま公園来園者数　2,796名　　年度累計2,796名

・開　館　時　間：　9：00～17：00・入館料：無料
・休　　館　　日：　6月1日(水)
・クリーンアップ：　6月7日(火)21日(火)10時～11時

★ふじやま公園運営委員会
〒247－0009　栄区鍛冶ヶ谷１－２０　TEL：896-0590　FAX：896-0593
「ふじやまだより」に対するご意見やご感想を電話、FAX でお気軽にどうぞ